

1. 年頭のあいさつ 会長 今井和男

新年明けましておめでとうございます。

会員の皆様には、ご家族お揃いで、輝かしい新春をおむかえのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は、会員の皆様のご協力、ご支援により、会の運営は、円滑に運ぶことができましたことを、心からお礼申し上げます。

昨年の活動、取り組みを振り返ってみますと、

- (1) 会が発足して、5年目、また会報50号発刊の節目の年でありました。会の発足時は、行政の指導でスタートしましたが、その間、会員のご理解、ご協力により、ようやく自主運営し軌道にのった感があります。とくに、会報は毎月1回発刊されました。この発刊に、ご努力された編集各委員の方々に深く敬意を表します。
- (2) 維持管理を中心とした観察道補修作業、植物等の補植の活動
- (3) 定期活動として学童を中心とした田植、稲刈り、餅つきをはじめ、ソバの植え付け等の体験学習の活動
- (4) 里山自然観察隊の活動

本年は、過去の活動、取り組みを反省しつつ、

- (1) 絶滅危惧植物等の維持管理
- (2) 見学観察者への対応

を中心に、「里山ビオトープ二俣瀬」の創造に努めて参りますので、会員のご支援をお願いいたします。終りに、「里山ビオトープ二俣瀬」の益々の発展と、会員、ご家族のご健勝と、ご繁栄を祈念いたしまして、年等のあいさつといたします。

2. 活動報告（事務局 記）

ー 12月29日（木）蓮根掘り

ー 1月21日（土）原田副会長新年のご挨拶が会長に代わって有りました。今年もビオトープの発展のため会員が一丸となって頑張っておられる様、また楽しく活動をされるよう話がありました。

本日の活動は参加会員17名で、椎茸のホダ木の搬送と整木、看板 杭材伐採と製作、同 板の下地白ペンキ塗り、湿地帯通行止め区域の橋一部除去、田んぼ避けじ溝あげ、竹炭用原木一窯分製作

3. 今後の予定（事務局 記）

◎ 見学者

現在のところ予定なし

◎ 行事

ー 1月29日～2月5日 宇部市民パワー祭（パネルを展示）

併せ28日、2月3日パーテーション運搬応援

ー 2月5日（第一日曜日）の活動（看板の仕上げ、竹炭の火入れ、残りの竹原木の製作等）

ー 2月12日 下関市の豊田ホテルの里ミュージアムにてビオトープの講演 西原会員

ー 2月18日（第三土曜日）の活動（階段通路の補修）

同日 車地地区 観音様縁日です。午後1時より観音堂の移転新築餅まきもあります。

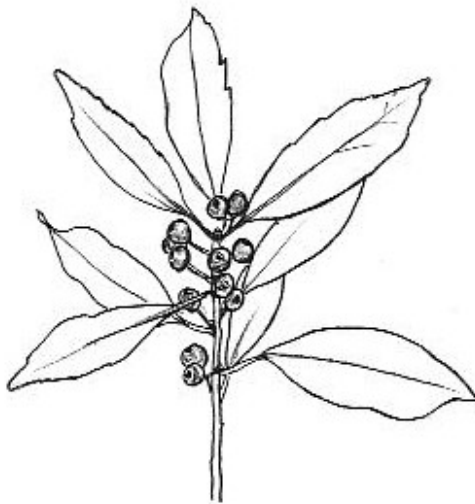
4. ビオトープ関連（ビオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

モチノキとソヨゴ

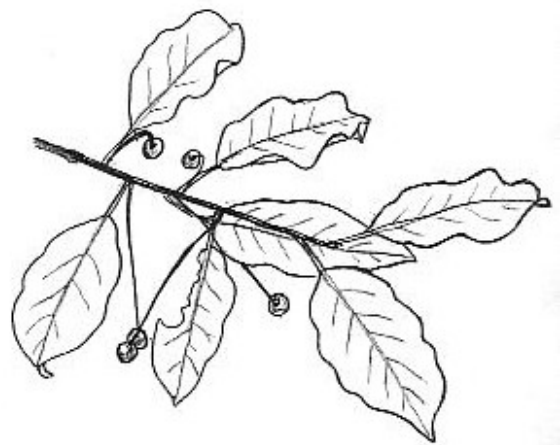
冬枯れの山で目立つのは、赤い実を付けたモチノキ科の木です。モチノキ、クロガネモチ、セイモチ、ソヨゴ、落葉樹ではアオハダなど、モチノキの仲間は赤い球果を付ける木がほとんどです。

モチノキは、ビオトープのまわりでは私の知る限り、1本しかありません。毎年赤い実をびっしり付けるので目立っていて、何の木か、と度々聞かれました。モチノキはその名の通り、樹皮を鳥もちにするのですが、この木は粘らないので違うのではないか、という意見もあり、なかなか結論が出せずにいました。ですが、葉や実の形などいろいろな形態からして、モチノキ以外には考えられないので、この木はモチノキという結論にしておきます。

ソヨゴはモチノキの仲間ですが、あまり名前は一般的に知られているとは言えません。東日本出身の私は、モチノキ、クロガネモチは庭木として名前は知っていましたが、野山に生えているのを見るのは初めてでした。ましてやソヨゴは名前すら初めて聞きました。これらモチノキ科の常緑樹は、山口に来てから一つ一つ図鑑で確認していった木々たちです。厚東川沿いの、二俣瀬から南に連なる霜降山系の花崗岩質の山地では、ソヨゴはクロキと並んで現在一番優先する樹種ではないかと思います。アカマツが松枯れで消えた後、乾燥と貧栄養に耐えるこれらの木が勢力を誇っているようです。昭和山の山頂付近で特に多く見ることができます。ソヨゴは、赤い実が長い枝の先に付いていること、葉柄も長く、風にそよそよとそよぐことからその名が付いたと言われています。その真偽はともかく、先輩の森林インストラクターに教わったその名前の由来と識別法はとても印象に残ったので、一遍で覚えることができました。やはりそれなりの名前が付いていることはたいせつです。子どもたちに教える時も、枝を取って振ってみせます。そよそよというよりシャカシャカという感じですが、きっとその印象は脳裏のどこかに留めてもらえるでしょう。



モチノキ（モチノキ科）



ソヨゴ（モチノキ科）

5. ビオトープ関連 (会員の声) (林 弘之 記)

今年の初日の出は過去最高だった？

昭和山から見る今年の初日は、穏やかで快晴に恵まれて、近年に無いとても美しく神々しい感じを受けました。

東の山から昇る初日は、大きくて丸い真紅の太陽で、昇るにつれて上部はやや白みを増して輝き、身の引き締まる思いで手を合わせました。

しばらくしてふと気がつく、太陽の右のほうで南から北へ向けて純白の飛行機雲が湧いては消えながら、一定の長さを保ちつつ移動していました。そして下の方では山の稜線上を野鳥の群れが黒い点々となって南の方へ飛んでいくのが見えました。

ここまでは何気なく観察していたのですが、何分か過ぎて「しまった！ 最高の場面を見逃した！ 残念！」との思いでいっぱいになりました。と言うのも飛行機雲が太陽の上の方を通れば、一月一日の一日とも思える場面だったり、太陽の円内を貫けば初日のまたとない珍事だし、太陽の下を通過すれば元旦の旦という字とすることが出来る風景だったのです。(勝手な解釈ですが) しかも酉年が終る意味で、野鳥が南方へ飛び去る場面も同時にあったのですから、この見落としが残念無念であったのです。(酉の意味はにわとりですが)

それに気付いたあと、せめて犬の鳴き声でもと思い耳を澄ましたが聞こえませんでした。もし聞こえていれば、これぞ最高の戌年の初日だったのにと考えてなりません。

飛行機雲は見たと言う人はいましたが、誰か写真に撮った人はいませんかねえ。

ところで、私は長年一人で初日を拝んでいます、ほとんど家の裏にある昭和山に行きます。その理由は初日を拝んで和歌らしき句を作り、それを年賀状に書いて出すためです。そのため私の年賀状書きは元旦以降となります。何年前から始めたか記憶にありませんが50歳のとき「五十路(いそじ)」と言う言葉を入れ詠んだ事を憶えていますので、20年位は続けていると思います。

特別勉強したわけでもなく、サークルで活動した訳でもありませんので、愚作は記録にも残していません。1年1作のスローペースで、進歩はありませんが、恥を承知で今年の句を。

生を受け 命の年輪 重ねんと 初日に願う 六十七の春

次回は藤村武昭 会員にリレーします。宜しく

6. 来訪者の声 (東屋のノートより一部抜粋)

—12月10日— 15:55曇りのち晴れ

今日寒いせいか訪れる人影なし。会報27号から毎号続いている美濃和会員の「ビオトープ周辺の植物」は多くの会員の関心を集めている記事だと思います。初めて聞く植物の名前、種類の多さにびっくりしています。再編集して里山ビオトープの教材にしては如何ですか。皆様のご意見をお願いいたします。

—18年1月1日— 正月から着ましたもの好きです。誰か“えんぼとたんぼ”の意味を教えてください。

7. 会よりの連絡事項

※来訪者の声の回答

—1—美濃和会員にお願いするしかありません。ご検討をお願いします。

—2—“えんぼとたんぼ”の意味 ただのゴロあわせです。ただしたんぼ=小さい沼つまりビオトープの水辺を想像してください。

※ 今年看板の掛けかえ、階段通路の補修、湿地帯腐食観察橋の除去を4月までに完了したくご協力ください

8. 編集後記

2006年今年もよろしくお願いします。10月からしばらく活動休んでいる間すっかり冬姿のビオトープになっていました。やらなければならない作業が山積。でも人手が少ないと思うようには出来ない。最初の頃の様に造りあげていく時は変化もあり参加者も 多かったけれど 現在維持管理の仕事が多くなってきて人数も限られているように思われます。でもこの維持管理がなくなればビオトープでなくなる。今年はもっと多くの人の手でエコアップできますように。元気に活動しましょう。

(松本 フデ子 記)